京都御苑ニュース

アオスジアゲハ・タンノ型

春

蝶からの音信

塚本　珪一

昨秋の紅葉は美しかった。母と子の森にはたくさんのキノコもあり、風が銀杏や楓の葉と青い空で舞踏会をやっていた。その日は暖かい陽差しがあり、アラカシの垣根には越冬前の何頭ものムラサキシジミが紫の光を放っていた。

西洋の詩人が「蝶は一つ折りのラブレター」と言った。芭蕉の「入りかかる　日に蝶々の急ぐなり」の句に、昆虫学者の安富和男さんは、多くの蝶は日が暮れかかるとねぐらへ急ぐと説明される。

ヘルマン・ヘッセの『蝶』は、アウスブルグの画家、ヤーコブ・ヒューフナーの銅版画が入っている美しい本である。私がこの訳本を手にしたとき、一つの感動があった。その一つは、ヘッセがスイスのバーゼルに移住し、その幼い日々に訪れた牧場での孤独な時間は自己の発見の思い出があるという。私も小学校時代に御苑の自然の中で自己を育んでいたと思う。ここで言う自己とは「個」であり、最近の子どもたちに欠落している。もう一つはヘッセの「蝶」という詩には、心に痛手を受けたとき、蝶に神々しさを感じ、静寂の美を見たという。

御苑で五十四種のチョウを記録しているが、松山均さんが数年間に撮影されたチョウは三十種と、二〇〇四年に報告されている。松山さんは御苑でのチョウの撮影は植物園と比べると花が少なく難しいと言う。さらに、二〇〇六年には御苑で自然観察を続けられている川合正豊さんが、スジグロシロチョウ、ルリシジミ、ミドリヒョウモン、コミスジ、ヒカゲチョウの五種を確認され、藤井肇さんも二〇〇五年にムラサキツバメを撮影されているから、三十六種のチョウが現在では生息していると言えそうだ。

ツマキチョウ♀

春の御苑は成虫で越冬していたチョウと春に現れるチョウが飛び始める。幸いなことに、御苑の春を告げる可憐に前翅の先端が尖るツマキチョウは健在である。ツマキチョウの♂は前翅端が橙色である。食草がアブラナ科であるため栽培植物にも依存しているのだろう。春のチョウで、小さな妖精のコツバメが最近少なくなったのではと心配である。四月初めに現れる裏面に褐色の縦縞のある可愛いトラフシジミも健在である。ツツジ類が咲く頃には大型のアゲハチョウも出そろい、南からのナガサキアゲハも現れる。最近、増加したツマグロヒョウモンも御苑の各所にみられる。

御苑にはクスノキが多いため、それを食樹としているアオスジアゲハが多くなると夏がやってくることを知る。草地の数種の花にやってきたアオスジアゲハが飛び、吸蜜するのを見ていると、時間の経つのを忘れさせてくれる。昨年、私が御苑で撮影したアオスジアゲハの写真を見た研究者は「これはタンノ型です」と教えてくれた。写真のように前翅先端部の青色斑が二個あると言う。私もまったく気付かなかった。

御苑で小学生の頃に見た後翅に尾状突起のあるアカシジミに今では出会うことがない。後翅裏に褐色条があるツマグロキチョウも見られないと思っていたら、全国的に激減し、河川の改修が原因だという。白雲神社の森で出会った数十頭のヒオドシチョウの蛹も今では夢のようである。増加したチョウ、いなくなったチョウは私たちに重要な環境問題についての音信を運んでいたのだろう。

御苑、糺の森、府立植物園、そして、私が毎日夫のトトロ君と歩いている鷺の森から雲母坂入り口あたりのチョウの記録を数年間続けているが、いろいろなものが見えてくる。京都の各所で出現している南からのイシガケチョウと出会うことを楽しみにしている。そのうち御苑にも現れると思う。

ヘッセは「自然のものはすべて絵であり、言葉であり、色さまざまな象形文字である」と書いている。今日、私たちは自然からの音信である絵や文字を読み取ることを忘れているか、出来なくなっているようである。

昆虫がいっぱいいる御苑の自然は私たちにとって「知の風土」であると思う。菌類・植物・昆虫・野鳥……とそれぞれが美しく、その全体がすばらしい。

（京都自然観察学習会）

参考

安富和男、一九九七『詩の中の昆虫たち』三一書房

フォルカー・ミヒェルス編　岡田朝雄訳『ヘルマン・ヘッセ　蝶』朝日出版社

自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

魔法の都の御庭に参りまして

小沢　晴司

とある日テレビ番組を見ていたら、最近の学校教科書で、平安京遷都の理由は怨霊の祟りから逃れるため、と教えているものがあるとのこと。

七月の祇園祭りや、八月の大文字送り火などのお祭りをみるたび、全市中で鎮魂や慰霊などの行事が延々と繰り広げられているような、この町の特別な性格を感じます。

今も京都は、平安以来の様々な宗教儀礼や霊的な法や術などの様式が生き続ける町なのでしょう。

その町なか、三つの御所を囲み、玉砂利の広路を配置した広大な緑陰である京都御苑は、明治初めまで二百余の皇族や公家の屋敷が並ぶ地であったとのこと。かつての朝廷と時の権力者との拮抗や幕末政変の激動、王朝人の奔放な恋の物語なども、今や生い茂る森と、その中に埋もれるように点在する旧跡などにしのぶばかり。

この御苑の森に、数多の野鳥は飛来し、昆虫などの小動物がすみ、目を凝らせば、樹下できのこが人知れず不思議なパフォーマンスを展開しているのに気付きます。

御所の築地塀の直線を傍らに、白砂の広場の先には御苑の樹林の上、東山や北山の峰々ばかりが望まれますと、古都の町並と隣合せの空間なのに、市中とは隔絶された錯覚に陥ります。

世界中から訪れる旅人のみならず、日々ここを往き交う周囲の住人や会社員、学生達にも、一時のタイムスリップ、身近なワンダーランドとの出会いや癒しの場を提供する大都市に浮かぶ緑地は、同時に、現代という複雑な時代の流れに浸かる時空の島でもあります。

国土景観の劣化が急速に進み、心痛む事件が多発する中、政府では、「美しい国日本」を提唱しようとしています。

その中身を創造するのに、日本の歴史や文化を体現してきた京都ならば、様々な魅力的なアイデアを提案できるように思います。

京都御苑でも、昨春鳥丸丸太町に近い閑院宮邸跡再整備が一段落しましたこともあり、今後、この緑苑からどのようなメッセージを発信できるのか、皆様とともに考えていくことができればと願っております。

（京都御苑管理事務所長　一月九日付就任）

祇園祭の京都市中にて

自然はわれらを　われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881　京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
財団法人　国民公園協会
京都御苑　木村　博司
編集
㈱白川書院
監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は100%再生紙を使用しています。

葵祭・路頭の儀
王朝風俗を今に伝える

小西　伸夫

近衛使

風薫る五月、新緑が目映い京都御苑の中を東帯姿の平安貴族達と十二単や小袿に身を包んだ女性たちが大勢のお供を引き連れ静かに進んでゆきます。京都御所を出発し下鴨神社、上賀茂神社に向かう葵祭の行列です。行列は総勢五一一人、牛四頭、馬三十六頭、牛車二台、お腰輿一基などからなり、列の長さは約七〇メートルにも及びます。

葵祭は正式には賀茂祭と云い、遠く六世紀の中頃、欽明天皇の御世に風雨甚だしく凶作続きだったため、これはきっと賀茂の神の祟りに違いないと、時の天皇がお使い（勅使という）を出してお祈りをされ風雨を静められたのが始まりといわれています。祭の形が整ったのは平安時代京都に都が出来てからですが、まず御所の中で天皇から勅使に神へのお言葉である御祭文とお供えの御幣物を授けられる「宮中の儀」、勅使が警護やお供を引き連れ列をなして両賀茂社へお詣りされる道中の「路頭の儀」、そして神社に到着し神前で勅使が御祭文を奏上し、御幣物をお供えする「社頭の儀」の三つからなっています。これが途中何度かの内乱や戦争による中断を乗り越え現代にいたるまで続いているのです。ただ、今は天皇が京都御所には居られないので宮中の儀は行われていませんが、東京から勅使もお見えになり路頭の儀と社頭の儀は五月十九日にほぼ普通りに行われています。

行列は路頭の儀の本列（勅使列）とそれに従う斎王代列（女人列）があります。

御所を出発して下鴨神社に向かう本列の最初は警察や裁判所の検非違使庁のお役人や今の京都府知事に相当する山城使が馬に乗り大勢のお供を連れて行きます。次はお供え物の列です。御幣櫃が三つあるのは下鴨神社の神様はお二方、上賀茂神社はお一方だからです。それに「社頭の儀」で引き回しをする御馬が二頭行きます。第二列は近衛使（勅使の代役）とそのお供の社頭で舞を奉納する六人の舞人です。近衛使は黒色の装束をつけ、唐鞍に銀面を着けた馬に乗っています。第四列はこれも近衛使のお供の社頭で雅楽を奏でる七人の陪従と御祭文を持った内蔵使が馬に乗って進みます。最後の列は斎王代列です。斎王とは昔賀茂社にご奉仕された内親王や女王をいい、当時紫野斎院を出発された斎王とお供の女官たちの行列は、一条大路で葵祭の行列に合流し賀茂社へ向われたと伝えられています。斎院制度は鎌倉時代に廃絶されましたが、昭和三十一年に京都在住の未婚の女性を斎王代（斎王の代理）としてこの行列を再現し路頭の儀に加えています。

女人列

行列が京都御苑内を通過するのにほぼ一時間かかりますが、参後者それぞれのお役目に応じての装束の種類や色、持ち物（調度品）を偲んでいただくのも如何かと思われます。

（葵祭行列保存会事務局長）

京菓子考

久山　多代子

年の初めに和菓子作りと茶席の体験ツアーがあり、参加しました。

和菓子作りといってもベテラン職人さんの指導の下、小さくまるめてあるあん玉の上にきわやかな緑色をした餡を綴工して仕上げるのです。

どれひとつ同じものがない個性豊かな「きんとん」が出来上がりました。

ふとお店に並んでいるのを見ると、どれをとっても同じなのにと職人芸に感心しました。

そしてこの主菓子のルーツは何なのかと気がかりになり、京菓子資料館に出かけました。

すると学芸員の方から「用道間子」が第十一代垂仁天皇の命を受け持ち帰った橘の実が、日本での菓子の始まりだと説明を受けました。

そこで、京都御所の紫宸殿前にある橘を思い浮かべていました。

お菓子の歴史は古く天皇とのかかわりも深いことを再認識し宗教・茶道の原点を持つ京都だから発展したということも理解できました。

そのような歴史を持った京菓子を受け継いで、創作を加え発展させておられる京菓子職人さんの技はすごいものだと感嘆しました。

京菓子の歴史やいわれに思いを馳せながら休憩所の売店に入ってみましょう。

ほんの一例ですが、ところ狭しと並んでいる品々のなかから、限定品のご紹介をいたします。

『菊華仙』

京菓子の老舗だからこそ、創作できる一品です。京都御所の古典的な優雅さから生まれた一品だと伺いました。上品な味わいの麩焼煎餅に伝統の菊花紋を焼印で押し格調高く仕上がっています。

菊華仙

「御所松葉」

白みそのボーロで松葉を形どったものです。京都御苑にはたくさんの松があります。松の冠、鳥帽子の彼り物の遠いを見るのも一興。また、玉砂利に軋む牛車の音や色とりどりの風流傘に遠く平安の世思い出とともにご賞味ください

御所松葉

「御所せんべい」

御所参観の思い出に日持ちがして、持ち運びが便利なように小袋に入り南蛮菓子の流れを汲んだものです。菊の御紋の模様と紫宸殿の焼印が押してあり当地限定販売品です。

御所せんべい

なお、お菓子の歴史等について関心のある方は京菓子資料館（〒七五―四三二―二一一）をお訪ねください

（㈶）国民公園協会京都御苑　総務課）

催事案内

■平成19年京都御苑自然教室

一般市民を対象とした自然教室を本年度は、下記の通り予定しています。都市の中では貴重な緑をもつ御苑で四季おりおりの自然を観察しましょう。

春の自然教室“春の御苑にふれよう”

4月29日（日）9：30～12：00

主　催　環境省京都御苑管理事務所
㈶国民公園協会　京都御苑

指　導　京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。

内　容　春の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集合場所　京都御苑　閑院宮邸跡前
（上京区京都御苑南西角
中立売間之町口）

受付方法　当日、集合場所に9：30頃までにお集まり下さい。

参加費　無料

その他　筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があればご持参下さい。

*以降自然教室予定

夏の自然教室“夏の御苑にふれよう”
平成19年7月22日（日）9：30～12：00
集合場所　富小路休憩所前

問い合わせ　京都御苑管理事務所　TEL.075(211)6348
㈶国民公園協会京都御苑　TEL.075(211)6364

会員募集

財団法人国民公園協会京都御苑　会員

年会費

●普通会員　1,000円以上
●賛助会員（会社・団体）　10,000円以上

会員への特典

1. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。
（ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。）
2. 本会発行物をそのつど送付します。

■申し込み、問い合わせ先
㈶国民公園協会　京都御苑
住所　京都市上京区京都御苑内
〒602-0881　TEL.075(211)6364

御苑の花暦

和名	開花期	主に見られる場所
ウメ	2月中旬～3月中旬	梅林
モモ	3月中旬～4月中旬	桃林
〈サクラ〉		
イトザクラ	3月下旬～4月中旬	近衛邸跡周辺
ヤマザクラ	4月初旬～4月中旬	苑内全域
サトザクラ	4月中旬～4月下旬	出水の小川付近

京都御所・春の一般公開

4月4日（水）～4月8日（日）
入場時間　9：00～15：00
入口：宜秋門（ぎしゅうもん）
出口：清所門（せいしょもん）
問い合わせ先：宮内庁京都事務所　TEL 075(211)1211